

# 令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【七里小学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策	
知識・技能	基礎的・基本的知識が定着しているとは言えない状況にある。引き続き、授業中だけでなく、朝学習の時間や家庭学習を使って、学習プリント等を解かせ、基礎的・基本的知識が定着するよう繰り返し学習させる。また、既習事項と結び付けて授業展開を行うことも繰り返し学習と捉え、授業改善を行っていく。タイミングよく、小テストや蓄積されたデータを用いて児童の実態把握をし、把握した内容を生かした問題を提供していく。	
思考・判断・表現	協働的な学びは、意図的に行うことができている。次年度は、学びの質を向上させたい。共同編集や作品の鑑賞を授業中だけでなく、家庭でも学習できるように学習過程を工夫し、協働的な学びの時間を確保したい。各教科で、根拠となる資料を自分の考えに結びつけることに課題がみられるので、再度、教科横断的な視点で、資料の選び方や効果について、重点的に授業に組み込んでいきたい。	

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題>市学調の国語では、「文や文章」「言葉遣い」において、算数では、「数と式」の加減乗除において正答率が低い傾向にある。 <指導上の課題>児童が反復、習熟に取り組む時間の設定が不十分である。	⇒ 本校独自の「学力向上ワークシート」やドリルパーク、「課題克服応援シート」等を使って、基本的な言葉の学習や計算の反復・習熟に取り組ませる。【授業開始時、基礎学力タイム、読み・書取りタイム】
思考・判断・表現	<学習上の課題>市学調の国語・算数の「思考・判断・表現」の「資料を関係付けて読み取る」と「事実と意見を区別する」が市平均より低い。 <指導上の課題>「じ・し・や・く」を取り入れた児童が主観になるような授業が少ない。	⇒ 「じ・し・や・く」を意識した授業展開を行い、書く活動や自分の考えを伝え合う活動を必ず設ける。【毎授業】R6市学調「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」の質問項目において、肯定的な回答の割合が90%以上】

全国学力・学習状況調査 <小6・中3> (4月～5月)

⑤	評価(※)	調査結果 授業改善策の達成状況
知識・技能	A	朝学習の時間に、計画的に漢字の書き取りや計算、次の単元につながる既習事項についての問題を解かせた。朝学習で、できなかった問題は、休み時間を使ってできるだけ問題を解かせた。自分に合う学習コースを選ばせて進めた。また、Teamsを使ってオリジナル問題を発信し、タブレットがあればいつでもどこでも繰り返し問題が解けるように設定した。自主的に学習に取り組む児童が増えた。
思考・判断・表現	A	各教科において、ICTやマイタイミング交流を使って、児童は、友達の考えを見たり聞いたりして、自分の考えを深め、発表や作品等、表現に生かすことができていた。R6年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」の質問項目において、肯定的な回答の割合が約95%であり、取り組んだ成果が表れている。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語では、言葉の特徴や使い方に関する事項について、全国や県平均より上回っているため、今後も語彙に関する知識・技能の定着を意識した学習活動を継続していく。算数では、小数の計算や速さの問題に課題がみられた。わる数が小数の場合の計算の仕方や小数や分速の意味の理解が不十分であると考えられる。	
思考・判断・表現	国語では、条件を基に文章を書くことと描写から心情を読み取ることに課題がみられた。目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりして自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する力を身に付けさせること、描写を基に登場人物の相互関係や心情を読み取る学習を重視する。算数では、体積を求める問題と図形の性質に関する問題に課題がみられた。知識として解答できたとしても、図形間の関係に着目し、構成の仕方を考え、筋道を立てて、どのようにして計算をしたのか、答えを求めたのかを説明するのが苦手な児童が多いと考えられる。	

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語では、昨年度課題がみられた「主語・述語の問題」「適切な敬語を使う問題」について正答率の上昇がみられる。算数では、「四則計算、割合、面積の大きさや速さを求める問題」に課題がみられた。既習事項が積み重ねられていないと考えられる。社会では、概ね基礎知識は、身に付いている。理科では、実験器具の使い方や物の性質の学習で、実験観察したことが定着していないことが分かった。既習事項が、新たな学びにつながっていることを理解していないと考えられる。	
思考・判断・表現	国語では、「登場人物の気持ちの変化と文章中の言葉を結びつけること」と「自分の考えが伝わるように工夫すること」に課題がみられた。授業中に言葉を根拠にする、相手意識をもって表現するという授業展開がより必要であると考えられる。算数では、「問題と立式、答えを結びつけること」に課題がみられた。日常生活によくある複合的な問題に触れる授業展開を増やすことが効果があると考えられる。社会では、事実と課程を結びつけることに課題がみられた。理科では、問題→予想→実験方法→実験→結果→考察という授業の流れを大事にすることが、力の定着につながると考えられる。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	基礎学力の定着を目標に、朝学習の時間を中心に、繰り返し言葉の学習や計算に取り組んだ。朝学習は、学校として内容を検討し、計画的に行うことができた。	変更なし
思考・判断・表現	B	授業の中で、書く活動やICTを活用し自分の考えを伝え合う活動を設定した。その活動を通じて、友達の意見を参考に、再度、自分の意見を書いたり説明したりすることができた。	引き続き、「じ・し・や・く」を意識した授業展開を行うが、各教科に応じた見方・考え方を働かせることを大事にして教材研究を行い、実践する。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)